

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームありがとう一番町 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県静岡市葵区一番町30		
自己評価作成日	平成24年3月3日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200528&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通の便がよい市街地にあり、近くには公園が、商店街、市役所、病院等があり、買い物、散歩等入居の方が安心して生活できる恵まれた環境であり、近隣の方にも暖かく見守って頂いている。職員は認知症高齢者に関する専門的知識を習得しており入居者の尊厳を傷つけないよう、入居者との信頼関係を築くことに力を入れている。また地域の社会資源である施設として自覚を持ち地域の方々に気軽に来所して頂けるような交流を推進しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡市の中心地域にあり利便性が高い一方で、公園や市民活動センターなど人とのふれあいの機会がふんだんにある場所に事業所はある。地区の回覧板に事業所の「ありがとう新聞」を差し込んでもらったことなど、管理者が交替したことで今年度新しく取り組んだことも多い。またこれまでの取組の延長において、一番町保育園の園児訪問や番町市民活動センターでのカラオケ喫茶など、地域資源を活かした異年齢交流は利用者の楽しみの一つとなっている。洗濯たみやふきあげなど利用者のできそうな係をミーティングで話し合い、職員の関わりのアプローチ材として、個別ケアと自立支援への取組も覗えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族の和を基とし、常に互いを尊敬・感謝する心を持ち、共に学び、共に支え、共に歩む」という基本理念のもと、地域密着型サービスの理解を職員全員で持っている。また、地域に根ざしたホームを目指し、地域の方々と関係づくりやサービスの提供に取り組んでいる	法人理念は朝の申し送りで唱和していて、職員は暗記している。また、昨年からの具体的なステップとしてユニット目標も持つようになった。大きなゴールである法人理念を補完するものとして効力を発揮しているという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや運動会に参加している。毎月ありがとう新聞を作成し、町内の回覧板に入れて頂いている	地域の祭りや清掃活動、防災訓練などに利用者とともに積極的に参加している。また、昨年の管理者の交替を契機に地域への働きかけに尽力した結果、事業所の「ありがとう新聞」を回覧板に差し込んでもらえるようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に散歩等に出かける際、近隣の方たちと挨拶を交わしている。施設入口付近に花や野菜を植え、入居者と近隣の方とふれあいに繋がるよう活用している。また町内会の行事等に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を作成するとともに、会議の内容を職員に周知し、職員全員で議題の改善や要望を取り入れられるよう対応している	町内会長、民生委員、包括のほか家族の参加があり、公共施設への作品展示の奨めなど活発な提案をもらっている。前回は自主防災の隊員にも参加してもらい、避難誘導についての苦言やアドバイスなど貴重な意見を得ている。現在はまだ定期開催には至っていないため、課題としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と連絡事項の確認や相談等を積極的に行っている	書面は直接市役所に届け、都度会話をもつように心がけている。また、市の担当者も常に親切に対応してくれ、気軽に相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルがあり、全員が把握している。玄関等の施錠はおこなっていない	施錠など具体的な拘束行っていないが、スピーチロック的な発言は時折あり、管理者は都度注意している。外部で研修会があれば出向くようにもして、不定期ではあるが月例会議でも話し合う機会を設けている。	マニュアルは完備されているが、万が一取り組む際に必要となる書面(一時性・非代替性・切迫性に基づくことを記録するための書面)も備えることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者を第1に考え、尊厳の心をもって接している。また定期的にミーティングにて虐待防止の説明・話し合いの場を作っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外での研修を通じ権利擁護に関する理解を深め介護職員・職員と必要性の可否について検討の場を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項・契約書を読み合わせしながら説明をおこなっている。また面会時や電話により随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営規程に苦情等相談窓口を明示し対応できる体制になっている。ホームの玄関に意見箱とアンケート用紙を置き、ホーム内でいつでも対応できる仕組みとなっている。意見等あった場合は解決策をケース会議で検討し、ホームの運営に反映している	家族会に取り組んでいて、「職員の異動を知らせてほしい」など具体的な意見がもらえている。外出イベントや外食では利用者の意見を反映して企画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて意見や提案等、発言のできる場を設けている	会議では発言の過不足がないよう、順次全員が発言する時間帯を用意している。また、職員の様子に変化や管理者の気づきがあった場合は個別に面談するようにして、ストレスケアにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規定により就業環境の整備に努め、働きやすい環境づくりに努力しております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は採用時研修、経験に応じた随時の研修を受講している。また、研修報告書を作成し、職員全員が共有できる体制を確立している。外部の研修会に職員を積極的に受講させるなど、働きながら学ぶ機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者等が他のホームに視察したり管理者も駿河の会等に参加し交流を深め運営に役立っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と直接会い、思いや不安について話をゆっくり聞いている。会話の中での表情を汲み取るように心がけ、全職員で情報を共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に本人や家族等にホームを見学してもらうなど、利用者が安心して暮らせるよう、工夫している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は他のサービスの利用はないが家族・本人等から相談があれば対応していきたい		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、得意なことや経験を活かし裁縫や家事や歌などの場面作りを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を行い関係をきずいている。また面会時や電話等にて相談・報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には面会しやすいよう配慮している	家族の訪問は多くはないが、家族以外の訪問も受け入れていて、時折ではあるが近所だった人などの訪問もある。在宅時からの趣味である貼り絵を楽しんだり、珈琲など嗜好品を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いがより良い関係が築けるような環境を提供できるよう努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係を大切にし、必要に応じ相談等をおこなっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で小さな変化を逃さず、思いや希望を会話や表情から読み取り職員間で情報を共有しその人らしい生活出来るようケアしている	アセスメントは心身の状態に大きな変化がない場合は入居時から変更していない。洗濯たみやふきあげなど利用者にできそうな係をミーティングで話し合い掲示していて、職員の関わりのアプローチ材としている。この取り組みでは、男性が意欲的に食器洗いをするようになるなどの成果を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報として聞きとりを行っている。入居後も必要に応じ確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りにて情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画期間に応じたケアの見直しのほか、入居者の体調の変化に応じた随時の見直しを行っている。見直す際には、職員間で話し合うことはもとより、本人・家族の意見や要望を聞いている	以前からあった担当制に変革を試みていて、プランのみ全職員で取り組む方式に替えている。モニタリングシートを職員が記入したうえでカンファレンスに取り組み、ケアマネージャー(計画作成者兼務)が介護計画モニタリング表にまとめ、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等を個人記録に記入し毎日の申し送りや連絡ノートにて共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況を考慮し、できるだけに対応している。状況により通院の付き添いも行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージを利用する人もいて、必要な地域資源は紹介し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医を決定している。協力医療機関のほか、利用前のかかりつけ医の診察を受けられるよう配慮している。希望者は提携医による月2回の往診のほか、利用者の状態に応じて対応している	従来のかかりつけ医を続けるかどうかは家族に検討してもらっているが、現在は往診と24時間対応のある事業所の協力医にすべて変更している。月2回の往診では、事業所で「往診記録簿」に医師のコメントなど記録し、情報の共有化を図っている。ほかにも法人本部から派遣された看護師が健康管理などで週1回の定期訪問をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調に変化が見られた時に適切に対応できるよう看護師の資格を持つ職員を配置している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には情報を提供し、退院前にはサマリー等にて状態を把握している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員は重度化や終末期の対応について、入居者の要望に応じて支援できるよう、取り組みの方針を共有している。利用契約時に看取りに関する指針を説明するとともに、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。終末期の対応マニュアルを作成している	医療行為が必要がなければ取り組む考えでいて、これまでも経験がある。契約時に家族と看取りの話もはばかられ、書面の取り交わしのみで密な話し合いが成されていない。そのため、心身状態に変化があった都度、家族と話し合いの機会を作るようにしている。救命救急講習にほぼ全員の職員が参加し、有事に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使用して応急手当や急変時の対応をしている。提携医は24時間連絡がとれるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成している。年2回消防署の指導のもと、避難訓練を行っている。災害時の対策として、避難場所や避難経路を確保するとともに、非常用水を準備している。地域の消防隊に災害時の応援をお願いしている	年二回の防災訓練には地域住民にも見学参加してもらっていて、そこでのアドバイスから自主防との交流が始まっている。また、地域の防災訓練には職員とともに利用者も参加している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の記録は本人以外をイニシャルで記入するとともに、プライバシーを配慮した言葉かけや対応を行っている	新採時には基本的な研修をおこなっており、現場では「チャン」づけで呼ばない、目線の高さを合わせるなどについて管理者が都度伝えている。また、申し送りはイニシャルトークとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を話してもらえような話し方、声掛けを行っている。本人の意思を尊重し、対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、暮らせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、理美容時には本人の要望を伺って対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人、ひとりの力に応じて食事の準備や後片付け等を行い、食事や利用者と職員が同じものを一緒に食べている	法人本部の栄養士によるメニューがあり、2日に1度食材が業者から届いていて、調理は職員が作っている。「シェフの1日」と称した自由調理の機会を設けていて、調理師免許をもつ職員が腕をふるっている。時にはお弁当を作って戸外で楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。入居者一人ひとりの水分、食事量を「食事チェック表」に記録し、把握している。利用者の状態に応じた調理法を取り入れ、利用者が食べやすいよう、刻み食・ミキサー食などの調理法も取り入れている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいをやっている。また、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をみてチェックを行い、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている	「できるだけトイレで」という方針の下、「利用者の気持ちよさ」「家族の経費負担」を視点に職員間で話し合い、改善に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をつけ便秘状態を把握し、朝食時に乳製品を提供している。散歩、体操等働きかけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決めているが、入居者が満足できる入浴時間や入浴順を調整し、ゆったり楽しめるよう支援している	入浴日表をもとに声掛けをおこなっている。一方で時間帯は固定せず、また湯たんぼ希望の人に代替効果として足浴を提供するなど、臨機応変に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、状況に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬情等を確認し、薬の作用の理解に努めている。症状の変化があった場合は、主治医または看護師にすみやかに連絡し、すみやかに指示を仰ぐ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、一人ひとりの生活歴を把握しており、洗濯ものたたみ、歌、読書、散歩等、利用者に役割や楽しむことのできる場面作りを行っている。月1回程度外食やイベントを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の気分、希望に応じて散歩、日光浴等を実行している	天気がよければ事業所の周辺を散策したり、外気浴を楽しんでいる。外出は月1回の行事企画のなかに含まれ取り組まれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が購入を希望される時は、職員がその都度、一緒に行くよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方の希望や力に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じられるものを飾っている。陽射はカーテン等で適切に調整している。居室のネームプレートもデザインを工夫し、共用空間に親しみやすさを感じさせている。	利用者と職員で制作した季節の貼り絵が飾られ、温かい雰囲気が感じられる。また、ソファや椅子を多用し、居場所づくりにも配慮が感じられる。換気も定期的におこない、加湿器も設置している。	定期の清掃のほかに、チェック日や特定箇所のみ念入りに行う曜日を設けるなど、さらに清潔保持に取り組むことを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、リビング、どちらでも過ごすことができ、一人で新聞やテレビを観たり、気のあう方同士でおしゃべりをするなど、思い思いに過ごしていただけるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド、整理ダンスを設置している。その他入居者が使い慣れたもの、好みのものを持ち込んでいただけるよう家族に働きかけている	鏡台や筆筒、椅子などを持ち込み、また家族写真などを飾っていて、その人それぞれ好みの居室空間が保たれている。「介護の勉強を始めたの」という利用者の部屋には勉強中の本もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しながら、声かけで自立を支援して過度な介護にならないようにしている		